

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

様式1 (高等学校)

達成度 (評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	普通科進学校である本校にとって「学力の定着・向上」は最重要課題である。アンケートでは、「家庭学習の時間確保や定着を図っている」という項目での肯定的意見の割合が向上してきていることは評価できる。しかし、各種テスト等の結果をみると、学習内容の定着が十分ではないところもあり、指導方法の更なる工夫改善や家庭学習の充実が課題である。いじめ問題や心の教育については、早期に、かつ組織的に対応することができ、大きな問題はなかった。また、様々な制限下ではあったが、キャリアデザイン教育に関する取組等の進捗は十分に実施できた。 全体として、どの項目についても一定の評価はできるものの、それぞれ課題は多く、継続した取組が重要である。今までの成果をもとに検証を行い、学校全体で更なる改善に向けて取り組んでいく必要がある。
------------------	---

2 学校教育目標	校訓である「知を愛し、和を敬い、心を培え」を踏まえ、高い知性と豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い使命感をもって社会の発展に貢献する人材を育成する。 (1) 幅広い知識と深い教養を身に付けさせ、論理的思考力と豊かな表現力を育てる。 (2) 敬愛・協働の精神を育み、高い倫理観と公正な判断力を育てる。 (3) 強い意志と健やかな身体を鍛え、自己実現と社会発展に真摯に取り組む態度を育てる。
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力の保障 (授業を中心とした効率的な指導、ICTを活用した家庭学習やオンライン授業の充実を図る) ②生徒指導の充実 (基本的な生活習慣を身に付けさせ、ルールを守り主体的に行動できる生徒の育成を図る) ③進路指導の充実 (「キャリアデザイン」を通して進路意識を涵養する) ④人権教育の推進 (校内推進体制の充実を図る) ⑤新学習指導要領への対応 (新教育課程編成とそれに伴う授業改善策を検討する) ⑥働き方改革への対応 (教育活動の質を高めながら働き方改革を実践する)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
	取組内容	成果指標 (数値目標)			
●学力の向上	○家庭学習時間の確保と定着のための学年・分掌間で連携した取組	○低学年のうちに家庭での学習習慣を確立し、各学年での学習時間目標(学年プラス2時間)を達成した生徒の割合を70%以上にする。	・授業での初期指導を徹底し、学習の習慣化に努める。年数回、全学年で学習時間調査や生活アンケート等を実施し、情報を共有して対応策を講じる。担任との二者面談を積極的に行い、各学年の取組の1つとして、生活習慣改善や学習意欲向上の助言を行う。	B	・3年間を見通した指導を行うために、学年団でのきめ細やかな面談や学習指導ができていた。面談週間にかかわらず、声掛けを多くすることが生徒の悩みや希望の早期発見、早期対応につながり、よりよい指導が行える。学習面についても細やかな指導が効果を出すものと思われる。アンケート結果では、生徒の学習時間の目標達成は36%程度に留まっているが、90%が学校での学力向上の取組を肯定的に捉えていた。
	○ICT機器を活用した家庭学習やオンライン授業の充実	○電子黒板の利用率が90%以上にする。 ○学習用PCを活用した生徒との情報共有、アドバイス、オンライン学習を行った教職員の割合を80%以上にする。	○電子黒板を用いて効果的・効率的に授業を進める。また、そのための教材作成を行う。Classi等を活用し、情報の共有だけでなく、日常的に振り返りのための取組を実施していく。 ○各教科、1回はオンライン学習を行う。	A	・ICT機器の活用は、かなり積極的に取り組むことができていた。コロナ感染の関係で出校できない生徒に対してもオンライン授業で即座に対応することができた。アンケートでは生徒の83%が肯定的意見だった。Classiについても効果的な活用ができており、今後も積極的に取り組んでいきたい。
	○授業の充実、改善に向けた効果的な取組	○年に1回以上校内授業見学会を行い、評価を行った教職員を100%にする。 ○年2回授業評価アンケートを行い、その結果をもとに教科会議で分析を行う。	・年1回以上の校内授業見学期間を実施する。 ・年2回授業評価アンケートを行い、その結果をもとに教科会議で分析し、授業の工夫改善につなげる。 ・可能な範囲で先進的な授業模範の機会を設け、情報を共有してよりよい授業づくりに活かしていく。	B	・授業評価アンケートは年2回行った。それに基づき、個人・教科での改善措置を講じ、今後の授業や評価への取り組みがなされている。 ・授業研究会については、コロナの影響で難しい面もあったが、可能な限り行っていきたく、また、中高一貫の利点を生かし、中高の交流を進めていきたい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内または校外の人権・同和教育講演会に参加した教職員の割合を90%以上にする。 ○SNSや個人情報等に関する講演等を通して、情報モラル教育の徹底を図る。	・人権・同和教育講演会、及び各クラスでの人権学習・進路保障HR等を実施し、正しい知識と公正な判断で行動できる態度の育成につなげる。 ・講演会や各教科の授業等で、生徒が情報の取扱やトラブル未然防止について考える機会とする。	B	・人権・同和教育については、県全体の取り組みにも学校独自の取り組みにも全職員、積極的に取り組むことができた。生徒のみならず全職員の人権・同和教育の意識喚起を続けていく必要があり、今後も継続的に進めていく必要がある。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていたと回答した教職員の割合を90%以上にする。	・年間2回の生徒保護者向けのアンケートといじめ対策委員会を実施する。 ・担任・学年・生徒指導と連携をとり、学校生活全般においていじめ・体罰防止に取り組む。	B	・本校はいじめ・虐待ゼロを目指している。今年度はアンケートで認知されるケースが極めて少なかった。いじめアンケート等で出てきた事案に関しては、速やかに委員会を開き、学年と生徒指導部で迅速に対応してきている。引き続き学校全体でいじめ防止に取り組んでいきたい。
	○書物に親しみ、自己啓発を促す読書指導	○昨年度倍増したの生徒一人当たりの年間貸し出し冊数5.0冊を維持し、「図書館を利用している」と回答する生徒数を昨年度より10%以上増加させる。	・長期休み期間は貸し出し冊数を増やす。 ・新刊案内を校内掲示する。(学期1回) ・図書館だよりを発行する。(毎月1回)える。(年1回以上)	・県立図書館や市立図書館と連携して授業の資料をそろえる。	B
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合100%を目指す。	・食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行する。 ・保健室来室生徒に、個々の状況に応じた指導を行う。	B	・年度末の調査では、「健康に食事は大切である」と考える生徒は87%であり中間調査とほぼ変わらなかった。同じ設問に対して保護者は77%、教職員は66%の評価になっており、生徒より評価が低い。今後は、保健だよりを活用し、生徒へのアドバイスにつながるような食に関する情報提供を保護者や教職員へ行っていきたい。
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・通学路危険マップを作成し、全生徒に配布することにより、交通事故に巻き込まれない意識を高める。 ・年2回の自転車点検、年1回の交通安全教室のほか、生徒会による呼びかけ、講話募集・看板設置なども随時実施する。	B	・交通事故に関してはことあるごとに呼びかけた結果、事故の発生数は近年減ってきている。今年度の交通事故は軽微なものも含めて10件報告を受けている。近隣地区や警察との連携を深め交通事故ゼロを目指したい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休業日、学校閉庁日、学校開庁閉庁時刻等を設定し、時間外勤務時間の縮減とともに、休暇を取得しやすいようにする。 ・時間外勤務時間縮減に向けて、教職員からの声も聴きながら、できることを模索していく。	B	全職員の時間外勤務時間平均は37時間、産業医面接対象者はのべ11名(実5名)であり、昨年度比+4名だった。長期休業中は比較的長時間勤務が少ない。一部教職員の部活動での負担については、今以上の改善は難しい。今後は、業務改善や時間外勤務の工夫について継続して取り組んでいく必要がある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
	取組内容	成果指標 (数値目標)			
○進路指導の充実	○生徒の進路意識を高め、進路希望を実現するための適切な指導	○生徒個々人の希望進路を見据え、家庭学習の習慣化を図り、家庭学習時間(学年プラス2時間)の定着を図る。	・各学年の特性に応じた指導、及び個人面談等により、進路意識の向上を促す。 ・総合的な探究の時間を中心に、「キャリアデザイン」設計図に基づいて、今後の自分自身の生き方について意識を高め、具体的な取組目標につなげる。 ・家庭学習時間調査や二者面談等により生徒の理想把握を行い、ホームルーム等で周知と啓発を行う。	B	・コロナ対策も十分に行い、2学期末の3講座(九大OB授業、難関大志望者講演会、理系女子実験体験)を実施し、進路意識を向上させることができた。 ・各学年で定期的な課題設定を行い、家庭学習の時間を粘り強い学習指導ができた。
	○様々な教育活動を関連付けた生徒の志を高める取組	○第一志望大学合格者の割合を増やす。 ○難関大5名、九州大20名、国立大120名の合格を目指す。	・進路検討会や模試分析により、生徒の学力特性を把握し、面談等での的確な進路指導につなげる。 ・入試問題研究の充実と各種研修会への参加を通して、教科指導及び進路指導の指導力向上を図る。 ・難関大学志望生徒への学習指導について、各教科での工夫改善と全体での情報共有に努める。	B	・推薦総合選抜は、国立大18名が合格した。「共通テスト」は昨年度より難化傾向であったが、コロナ禍、全員が健闘をみせてくれた。 ・コロナ禍でオンラインを利用した入試研究会に参加して、受験にむけた指導力向上ができた。
○学校に対する生徒・保護者の満足度	○学校だけでなく、部活動やその他の活動に自ら積極的に取り組む姿勢を重んじる学校文化の中で、生徒が生き生きと学校生活を送ることができる教育活動	○学校評価アンケート項目の「生徒は、学校生活に十分満足している」において、肯定的な回答をした割合を生徒89%、保護者83%であった。	・部活動の活性化を図り、ボランティア活動、部活動以外の文化的活動、研修会など、様々な分野の活動の場を積極的に紹介していく。 ・情報発信をより分かりやすく、定期的に本校の活動状況が保護者に分かるよう工夫する。	A	・学校評価アンケート項目の「生徒は、学校生活に十分満足している」において、肯定的な回答をした割合は生徒89%、保護者83%であった。 ・コロナ禍、感染症対策を考慮した体育祭とクラスマッチを実施することができた。文化祭の代替発表会は実施できなかった。

5 総合評価・次年度への展望	●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ・教科指導では、十分に外部研修の機会を持つことはできなかったが、校内の授業研究を実施して職員の指導力の向上を図った。 ・生徒がやむを得ず登校できない場合に、家庭への授業配信を積極的に実践し、職員の理解も深まっている。 ・心の問題を抱えた生徒に対して、SCや外部機関との相談体制を構築し、関係職員で情報を共有しながら取り組むことができていた。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症により学校生活に大きな影響があったが、感染症対策を講じながら、教育活動の工夫改善に努めた。各学校行事でも生徒の創意工夫が見られ、大きな成果があったと考えている。 ・保護者、地域、大学との連携により、生徒の進路意識の涵養につながる講座を開講することができた。また、生徒の学習状況や進路希望を把握することにより、効果的な進路指導を行うことができた。 ・今年度の成果をふまえて、さらに「新教育課程における授業と評価の改善」、「教育活動の質を高めながらの働き方改革」、「ICTを活用した家庭学習とオンライン授業の充実」等の課題に対し、全職員の協力のもと、実践と改善に取り組んでいきたい。
----------------	--